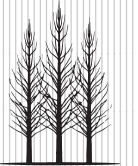


かけこ

掛合分校
後援会
事務局
(0854)
62-0084



『創立七十周年にむけて』



校長
山崎 誠

連日猛暑が続いた夏も終わろうとしています。後援会の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

さて、去る七月二十八日に、掛合分校創立七十周年記念事業実行委員会の発足を兼ねた第一回会合が開催されました。

本校は昭和二十八（一九五三）年四月、地域の強い要望とご支援により、島根県立三万屋高等学校掛合分校（定時制）として創立され、来年令和五年には創立七十周年を迎えることになりました。

創立以来、卒業生も現在二二〇名を数え、地域にとって欠かせることのできない人材を輩出してあります。近年では、小規模校ならではの強みを生かした特色ある教育活動が、県内でも高い評価を受けているところです。地域交流や地域をフィールドにした学習はその一つです。まさに地域に支えられ、生徒も学校も地域の方々によって育っている高校です。

左の資料は、中学生向けの説明会で使用するスライドの一部です。

掛高には「本物がある」

本物の少人数教育
生徒が少ないのが少人数ですか？
違います！
生徒一人に全教職員が支援できる環境

本物の地域密着
派手なイベントが必要ですか？
違います！
地域の先輩との心通う交流

私達は誇りと愛情を持って「掛合分校」のことを「**カケコー**」と呼んでいます

掛合高校では、様々な活動の場や機会を地域の方々に提供してもらっています。なかでも、探究学習では、左のような学習させてもらっています。

一年 地域探究学習

二年 地元ブランド米販売戦略立案
職場体験（インターンシップ）

三年 雲南市魅力化策提案

こうした学習を通して、島根や雲南の魅力に触れることで、あたりまえのことがあたりまえでないことに気づき、島根や雲南に、そして働くことに誇りをもつようになっけていきます。地域貢献にもつながっていく、自主的なボランティア活動に参加する生徒も増えつつあります。地域の方々にその活動や活躍を応援してもらったり、認めてもらったりする中で、自信をつけ、コミュニケーション力だけでなく、主体性が養われていく生徒も多くなります。

令和四年度は、学校の合い言葉「少し変え、小さな挑戦、小さな気遣い、大きな志」を自覚した大人となるために、宮沢賢治風にこの合い言葉に込めた意味を解説すると、

挑戦していく少しの勇気を持ち、人への思いやりを忘れず、大きな志をもって決まらずに努力を怠らない。そんなカケコー生には私に足りない。自立した大人となるために。となるでしょうか。カケコー生が、自立した大人として成長していく中で、教育資源、教育環境として、地域は重要な役割を果たしている。七十周年に開く事業をすすめていく中で、これまで以上に、カケコーと地域がより緊密になり、カケコーがあることが町の誇りに、カケコーに通うことが生徒の誇りにつながってほしいと思っています。

後援会等を通じて、これまでも多大なるご支援をいただいておりますが、七十周年事業の推進に向けて、物心両面において、さらなるご協力ご支援等いただければ幸いです。

教職員異動のお知らせ

春の人事異動により、三名の教職員をお送りしました。在任中は、掛合高校の発展のためにご尽力いただき、ありがとうございました。新しく赴任された先生方には、これからお世話になります。

○転任者

国語科	亀尾 佳宏
商業科	奥井 司
芸術科（美術）	水津 友宏

○新任者

国語科	鐘築 晶子
商業科	後藤 光昭
芸術科（美術）	齋藤 晶子
業務アシスタント	梶谷 加奈
倉監	三ツ木章夫

令和四年度入学式 ～新入生三十名を迎えて～

四月十一日（月）、掛合高校講堂において、令和四年度入学式が行われました。来賓の景山俊太郎後援会長と小林実前PTA会長ご隣席のもと、暖かい春の爽やかな日差しが差し込む晴れやかなムードの中、今年度の新入生三十名が、高校生活の新たな第一歩を踏み出しました。

新型コロナウイルス感染症対策として、残念ながら今年度も二・三年生の参列は叶いませんでしたが、式のライブ配信を教室で視聴することにより、画面を通して新入生を迎えることができました。

山崎誠校長先生からは、新入生に向けて「小さな挑戦、小さな気遣い、大きな志」を自覚した大人となるために、とこの言葉が贈られ、小さな一歩一歩の積み重ねや他者を気遣うふるまい、何事も志



を持って意欲的に取り組むことの大切さが語られました。この言葉が掛合高校全校生徒、教職員、教員の今年度の合い言葉となります。

また、新入生代表の難波七海さんが、「今日から三年間、勉学に励み、どんなときも努力を怠らず、かけがえのない仲間とともに精進していくことを誓います。」と力強く宣誓しました。

入学式のおとは、掛合高校玄関前で保護者、教職員全員を交えて記念撮影を行いました。春のやわらかな風に桜の花びらが舞う中、掛合高校の建つ「佐中の丘」に皆の笑顔があふれる一日となりました。

一年生 地域探究学習 ～掛合町内フィールドワーク～

六月一日（水）、一年生が地域探究学習の一環として、掛合町内の名所や資料館等を巡り、調査する活動を行いました。一年生は「総合的な探究の時間」を利用して、毎



年度、掛合町内の五地区（多根、松笠、掛合、入間、波多）の現状と課題を調べ、グループに分かれて課題解決策を提案する学習活動を行っています。この日は、その活動のスタートとして、各地区交流センターの職員の方からお話をうかがい、名所等をフィールドワークする活動を行いました。

このうち入間地区では、入間交流センターの廣田英資センター長の案内で「八重山神社」を訪れました。八重山神社は、江戸時代に松江藩主により建立されたと

言われ、牛馬の守護神として地域の方に崇敬され、現在でも春・秋の祭典には多くの参拝者が訪れる神社です。およそ三〇〇段近くある長い石段を登ると、絶壁の岩のくぼみに本殿があり、様々な言い伝えから、掛合町内の隠れたパワースポットであることを肌身で感じる事ができました。また掛合地区では、竹下登元首相の生家「竹下本店」内にある「かけや酒蔵資料館」を見学し、この地で代々行われてきた酒造りについて学ぶことができました。このほかにも、日本の酒百選に選ばれている「龍頭が滝」や「波多神社」などを巡りました。

一年生は、今年度一年間を通じて、地区ごとのグループに分かれ、各地区の現状と課題をより深く知るための学習活動を行い、十一月四日・五日に行われる掛合高校文化祭において課題解決策提案の中間発表を行う予定です。地域



五月九日（月）、二年生が雲南市吉田町の宇山宮農組合、雲南市、その他関係諸機関と協働しながら行う地域貢献学習がスタートしました。二年生は今年度一年間かけて、雲南市吉田町民谷宇山地区のお米作りの一部を体験学習し、そこで生産されるお米の販売促進プランを提案する学習活動を行います。



二年生 地域貢献学習 ～ブランド米販売促進活動～

この日は、同地区の水田を訪れおおよそ十アールの水田に「つや姫」の苗を手植えする作業を行いました。標高五〇〇メートルの水田で育った稲は、昼夜の寒



暖差の影響もありよく育ち、雲南市プレミアム「うやま米」の名称でブランド米として流通しています。掛合高校では、昨年度から本格的にこの活動に取り組み、今年度は昨年度のノウハウも生かしながら、高校生らしい目線で更なるPR活動を行うことを考えています。

この日は、初めて水田に入り苗の手植えを行う生徒も多く、泥まみれで悪戦苦闘しながらも、予定されていた区域の田植え作業を終えることができました。体験した生徒には、ほどよい疲れの中にも達成感に満ちあふれた笑顔がたくさん見られました。

また、六月十七日（金）と七月二十日（水）、有限会社アエラ地域文化デザイン室の影山邦人様、安田陽子様をゲストティーチャーとしてお招きし、「たたら炭米をめっちゃ食べてみたくなるPRキャンペーンを考えよう！」と題した学習活動を行いました。生徒は「キャラクターグッズ」「料理・レシピ」「映像・音楽」「デザイン・写真」の四つのグル



ープに分かれ、それぞれ企画案を提案し、プロのデザイナーの視点から様々なアドバイスをいただきました。



六月二十二日（水）には、宇山営農組合の藤井組合長と須山光雄副組合長をお招きし、インタビュー形式により、お米の特徴や米作りの工夫、そして地域の方たちの熱い思いを聞き取ることができました。

今後、生徒はグループごとに販売促進活動の詳細を詰めていく予定です。今月には稲刈り体験学習に合わせ宇山営農組合の農家の方たちに提案し、十一月の掛合高校文化祭や、同月道の駅等で行う特別販売会に臨む予定です。



三年生 地域創造学習 就職ガイダンス、林業体験

七月一日（金）、外部から専門の講師をお招きし、三年生を対象に就職ガイダンスを行いました。このガイダンスは、厚生労働省と島根労働局主催の事業に掛合高校が実施を申し込むことによって実現した取組で、この日は午前・午後の六時間を使って、講義から演習にいたる一連のプログラムを行いました。



最初に、講師の先生から高校新卒者の就職環境や社会に出て仕事をするにあたっての心構えなどの基礎的な知識を学び、グループディスカ



ッションや自己紹介文の作成などの演習を行いました。午後は、実際に集団面接を受ける場面を想定し、模

擬面接とその評価を相互に行い、最後にその振り返りを行いました。

将来の進路選択にあたって、自身身を振り返り、今後の活動に向けた準備をする大変よい機会になりました。

また、七月十三日（水）、島根県中山間地域研究センターと島根県立農林大学校林業科（いずも飯石郡飯南町）において、三年生が林業体験学習を行いました。この学習は、島根県農林水産部が行っている「高校生の林業教育推進事業」に掛合高校が申し込むことによって実現した企画です。

この日は、同センターの広大な敷地内にある研究施設等を見学した後、薬用効果があるとして注目されている「ク



ロモジ茶」の煮出しと試飲を行いました。その後、研究員の方からの講義を受け、中山間地域における持続可能な自然環境保全や創造的活動について、その現状と課題を知ることができました。また、午後からは、農林大学の学生さんたちのご指導により、ドローンの操作実習や丸太の切り出し、重機の運転実習を行いました。VRを使った重機の運転演習など、島根県が誇る最先端の機器に触れることができ、島根県の農林業の先進性を肌身で感じることができたようでした。

町内保・小・中・高連携活動 「ごみゼロ大作戦」



六月十六日（木）、掛合町内保・小・中・高が連携して地域の清掃活動等を行う「ごみゼロ大作戦」を行いました。この取組は掛合町内四

校園の連携・交流活動の一環として毎年度行っているものです。この日は、四校園のすべての児童・生徒が町内五地区（波多・入間・掛合・松笠・多根）に分かれ、各地区の交流センターなど指定された場所の清掃活動等を行いました。各地区では、最初に掛合高校生の進行により開会式を行った後、グループごとに自己紹介を行い、その後清掃活動等に入りました。

このうち掛合地区では、狭長（さなが）神社の清掃活動の他、児童・生徒と地区の住民の方との交流をより一層深めようと、今年度新たな取組として、避難所運営ゲーム「HUG（ハグ）」を行いました。地震や豪雨など大規模災害時の応急対応活動の中で、避難所運営は特に重要です。「HUG（ハグ）」はそのような事態を想定して、グループのメンバーでコミュニケーションを取りながら、平面図上でどのように避難所運営を行うのかを疑似体験するシミュレーションゲームです。掛合中学校に集合した児童・生徒は六つのグループに分かれ、それぞ



れ大人の方との意思疎通を図りながら、ゲーム感覚で避難所の運営を学ぶことができました。

その他の地区においても、清掃活動後にジャンケンゲームを行ったり、グループに分かれて反省会を行ったりするなど、児童・生徒、地区の大人の方との交流を深めることができました。このような四校園が連携した地域との交流活動を、今後も継続的に行う予定です。

演劇同好会ドキュメンタリー 映画上映「掛高版走れメロス」



六月五日（日）、雲南市木次町のチェリヴァホールにおいて、掛合高校演劇同好会の活動を追ったドキュメンタリー映画「走れ！走れ！走れメロス」が上映されました。

掛合高校演劇同好会は、昨年度、同タートルを冠した演劇で島根県高文連出雲・石見地区大会に出場し、またその後チェリヴァホールで行われた公演が関係者から高く評価され、今年三月、東京下北沢で行われた日本演出者協会「若手演出家コンクール二〇二二」で堂々の演劇を披露し、同コンクールでの最優秀賞獲得に大きく貢献しました。この日上映された映画は、昨年の地区大会から東京公演に至るまでの過程を、同好会メンバーの活動や心情の変化にスポットをあてて構成されたドキュメンタリー映画です。

午前と午後二回上映されましたが、いずれの回も会場は多くの観客で埋め尽くされ、笑いあり、涙ありの感動的な作品が披露されました。午後の回の上映後は、映画に出演した演劇同好会メンバー四人と折口慎一郎監督、前演劇同好会顧問の松江工業高校の亀尾佳宏教諭が登場し、会場内からの質問に答えるトークショーが行われました。トークショーでは、会場からの質問が途切れず、予定された時

間を一時間近く延長して、同好会メンバーと観客との楽しい対話が繰り広げられました。観客の方からは、同好会メンバーの高い演技力と豊かな感性、そして個性溢れるメンバーのチームワークの高さを賞賛する声が多く聞かれました。演劇同好会の次なるチャレンジに、ますます期待感が高まります。

令和四年度体育祭 「一致団結！パワー！」



七月二十一日（木）、令和四年度体育祭を開催しました。当初はグラウンドでの開催を予定していましたが、天候不良の日が続いたため、開催日

と会場を変更し、掛合体育館での開催となりました。

大会テーマは「一致団結！心をひとつに頂点を目指せ！パワー！」で、開会式で赤組色長の常松博樹さんと青組色長の曾田昇吾さんが声高らかに選手宣誓を行った後、七種目の競技を行いました。午前中の締めくくりとして行われた「応援合戦」では、鮮やかなデコレーションをバックに、両軍華やかな手作り衣装を身にまとい、これまで練習してきたダンスを見事に披露しました。また、午後に行われた「借り物競走」では、「好きな人を連れてゴール」とのお題に、クラスメイトみんなを連れてゴールするという微笑ましい姿も見られ、会場内が笑顔に包まれていました。

閉会式後に学校に場所を移して行われた色別反省会では、三年生を中心これまでの頑張りをお互い讃えました。荒天にも負けず大



盛会のうちに終わった今年度の体育祭。互いを敬い、助け合いながら築



赤組



青組

事務局より

平素より、後援会の皆様には掛合高校の教育活動に、格別のご理解とご尽力をいただき、また会費の納入等にもご協力いただきありがとうございます。

生徒の学習活動や施設の充実に役立てて参ります。今後とも変わらぬご支援、ご協力をいただきますようよろしくお願い致します。